

風情を通じ、人と人との交流を 納涼夏まつり

「楽しさときめく はとやまの夏」



交流の輪が広がった盆踊り（第1会場）



鳩山町納涼夏まつり実行委員会の主催により、8月3日に第1会場である町中央公民館北側駐車場で、4日には第2会場である鳩山ニュータウン・センター地区広場で納涼夏まつりが開催されました。今年「楽しさときめく はとやまの夏」をメインテーマに、まつりの風情を楽しみながら町民の交流を深め、人情にあふれる快適なまちづくりを推進するために行われ、2日間にわたり、両会場は多くの人でにぎわいました。

第1会場では、多くの模擬店が並ぶほか、会場中央の櫓を囲んで、和太鼓やヒップホップダンス、よさこい踊り、民謡



夏の夜空を彩った花火（第1会場）



踊りなどが披露され、まつりを盛り上げました。また、会場に訪れた皆さんは、新鳩山音頭や炭坑節などの盆踊りを通じて交流を深めていました。第1会場の締めくくりには打ち上げ花火が行われ、会場では大きな歓声と拍手があがり、夏の夜空に咲いた色鮮やかな大輪の花を多くの方が楽しみました。



会場に駆けつけたはとん（第1会場）



お祭りステージで太鼓を楽しむ来場者（第2会場）

翌日の第2会場では、お祭りステージ、子ども広場、模擬店・バザーのエリアでそれぞれにぎわいを見せ、訪れた皆さんは、カラオケやバンドなどによる音楽、今宿囃子保存会による祇園囃子、トランポリンや水鉄砲、おたのしみ抽選会などを思い思いに楽しみました。また、まつり会場付近では子どもみこしや大人みこしの練り歩きが行われ、威勢のよい掛け声がまつりの

多くの人で賑わった模擬店（第2会場）



威勢のよい掛け声でにぎわった大人みこし（第2会場）

霧囲気を盛り上げていました。夜には、集まった皆さんが盆踊りを楽しみ、多くの人が踊りと音楽を通じて心一つにし、まつりの最後には、子どもたちによる花火大会も行われました。



「食」の力で、人と人のつながりを

「食」コミュニティ会議

プロジェクト始動



「食」をキーワードに、健康づくりの場や地域の特徴を生かした交流の場を町全体に広げ、社会参加の場の創出に取り組み、鳩山町「食」コミュニティ会議プロジェクトの活動が6月から始まりました。

「食」の趣旨を共有



先行事例を紹介する女子栄養大学の武見ゆかり氏（第1回会議）

6月7日には第1回会議が町保健センターで行われ、連携して取り組む女子栄養大学と東京都健康長寿医療センター研究所や、5月に公募した「食コミリーダー」を始めとするプロジェクトのメンバーが集まりました。第1回会議では、「食コミ」の趣旨を共有し、プロジェクトに対する気持ちや高められるため、活動の目標や立ち上げ経緯、他市町村での取り組みについての情報を共有しました。さらに、「食コミリーダー」の方々から、「食」を通じた交流の場を地域に広げるためのアイデアなどが



グループワークで議論する参加者（第2回会議）

の力を実際に確認したほか、「食コミ」の活動内容などを話し合いました。グループワークでは、具体的な活動の一つとなる、町内全体を対象としたワークショップ開催に向けての検討を行い、参加者は自由な発想で、さまざまな意見を出し合いました。「食コミ」では、今後もさまざまな取り組みを検討していきます。

提案されました。

ワークセッション
開催に向けて



食への知識・技術の向上を 食生活改善推進員 リーダー研修会

町保健センターで7月26日、坂戸保健所主催により、鳩山町、坂戸市、鶴ヶ島市、毛呂山町の食生活改善推進員が集まる合同のリーダー研修会が行われ、町から8人の推進員が参加しました。



研修会では、講話やグループワークのほか、調理実習と試食を通じて、野菜の効果的な摂取方法について学び、参加者同士で意見交換をしながら、食生活改善のための知識や技術を深めていました。

子どもに食への関心を おやこの食育教室



8月8日、鳩山町食生活改善推進員協議会による「おやこの食育教室」が町保健センターで行われ、2歳から小学6年生までの子どもと保護者13組32人が参加しました。

教室では、食生活改善推進員が「食べ物をえらぶ力」について説明したほか、調理実習が行われ、参加者は料理を楽しみながら食への関心を深めました。